

名古屋市感染症発生動向調査情報

2019年第43週(10月21日～10月27日)

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部) 2019年(令和元年)10月30日作成

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0.html>

◆本市の状況

〔トピックス：インフルエンザ〕

- 本市における第43週(10月21日～10月27日)のインフルエンザの定点当たり患者報告数は0.23人で、前週より減少しました。
- 本市では9月以降、集団かぜによる学級閉鎖等の措置が報告されており、これまでに6施設が報告されています。
- インフルエンザは例年1月から2月にかけて流行のピークを迎えます。小児や高齢者、免疫力の低下している方では重症化する場合がありますので注意が必要です。
- 主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染と病原体に汚染された物等を介した接触感染です。予防には人ごみを避け、帰宅時には手洗いを行い、また、感染を広げないためにも「咳エチケット」を守りましょう。

〔RSウイルス感染症〕

- 本市における第43週(10月21日～10月27日)のRSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.91人で、前週より減少しました。
- RSウイルス感染症はRSウイルスにより引き起こされる感染症で、感染後、4～6日間の潜伏期間を経て発症し、発熱、鼻汁、咳等の症状が数日続きます。
- 乳期、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがありますので注意が必要です。成人では通常は感冒様症状のみで、症状が重くなることは少ないです。
- 感染経路は飛沫感染や接触感染です。予防は、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクを着用して乳幼児に接し、また、おもちゃや手すり等は、こまめにアルコール等で消毒し、流水と石けんによる手洗いを行い、感染を防ぎましょう。

〔定点把握感染症の発生動向〕

- ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は、前週の0.2人から0.3人に増加しました。過去3年の同一週の平均との比較では2.2倍多い報告数になりました。

〔1類～5類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2019年 第43週	2類	結核	7	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、76歳、頸部皮下腫瘍 ・女性、84歳、肺結核 ・男性、71歳、肺結核 ・女性、90歳、肺結核 ・男性、64歳、無症状病原体保有者 ・女性、75歳、無症状病原体保有者 ・男性、57歳、無症状病原体保有者
2019年 第43週	5類	アメーバ赤痢	1	<ul style="list-style-type: none"> ・女性、54歳、腸管アメーバ症、感染原因：経口感染、感染地域：タイ
2019年 第43週	5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、79歳、菌検出検体：喀痰、菌種：<i>K. aerogenes</i>、感染原因：不明 ・男性、70歳、菌検出検体：尿、菌種：<i>E. cloacae</i>、感染原因：医療器具関連感染
2019年 第43週	5類	後天性免疫不全症候群	1	<ul style="list-style-type: none"> ・女性、32歳、AIDS、感染経路：性的接触（異性間）、感染地域：ロシア
2019年 第43週	5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、1歳、菌検出検体：血液
2019年 第43週	5類	梅毒	1	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、25歳、早期顕症梅毒（1期）
2019年 第43週	5類	百日咳	5	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、56歳、検査方法：ペア血清での抗体価の有意上昇、感染地域：名古屋市 ・女性、7歳、検査方法：検体からの病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 ・女性、9歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：愛知県 ・男性、11歳、検査方法：検体からの病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 ・女性、36歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：名古屋市

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2019 年第 42 週	2 類	結核	1	・男性、68 歳、肺結核
2019 年第 42 週	5 類	後天性免疫不全症候群	1	・男性、26 歳、無症状病原体保有者、感染経路：性的接触（同性間）、感染地域：国内
2019 年第 42 週	5 類	水痘（入院例）	1	・男性、16 歳、検査診断例
2019 年第 42 週	5 類	梅毒	1	・男性、75 歳、早期顕症梅毒（1 期）
2019 年第 42 週	5 類	百日咳	3	・女性、34 歳、検査方法：検体からの病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 ・男性、42 歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：愛知県 ・女性、16 歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：名古屋市
2019 年第 41 週	5 類	後天性免疫不全症候群	1	・男性、25 歳、無症状病原体保有者、感染経路：性的接触（同性間）、感染地域：国内
2019 年第 40 週	2 類	結核	1	・男性、40 歳、無症状病原体保有者

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

〔2019年1類～5類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2類感染症	急性灰白髄炎	0
2類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	508（146） [2] [0] [1]
2類感染症	ジフテリア	0
2類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コ ロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
3類感染症	コレラ	0
3類感染症	細菌性赤痢	4
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	40（9）
3類感染症	腸チフス	1
3類感染症	パラチフス	1
4類感染症	E型肝炎	1
4類感染症	A型肝炎	5
4類感染症	チクングニア熱	3
4類感染症	デング熱	9
4類感染症	マラリア	1
4類感染症	レジオネラ症	35
5類感染症	アメーバ赤痢	15
5類感染症	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	4
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	46 [1]
5類感染症	急性弛緩性麻痺	3
5類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、 東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー 熱を除く）	15 [1]
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	2
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	26 [1]
5類感染症	後天性免疫不全症候群	63（49）<1>
5類感染症	ジアルジア症	1

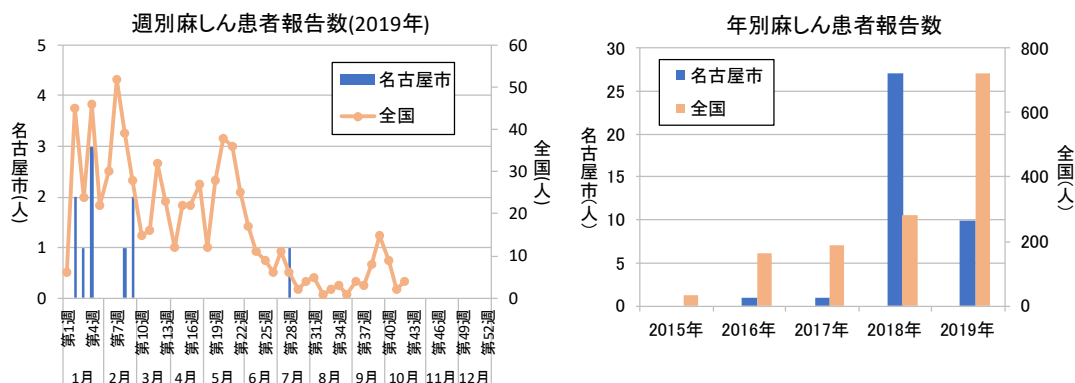
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	13
5 類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	5
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	61【1】
5 類感染症	水痘（入院例に限る）	5
5 類感染症	梅毒	166（58）
5 類感染症	播種性クリプトコックス症	3
5 類感染症	破傷風	1
5 類感染症	百日咳	221
5 類感染症	風しん	21
5 類感染症	麻疹	10

累計は 2019 年第 1 週からの診断週による累計、（ ）内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[]内は疑似症累計数を再掲、【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。

対象疾患が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔名古屋市の麻しん報告数：2019年10月30日作成〕



週別麻しん患者報告数(2019年)

名古屋市	第2週 (1/7～ 1/13)	第3週 (1/14～ 1/20)	第4週 (1/21～ 1/27)	第8週 (2/18～ 2/24)	第9週 (2/25～ 3/3)	第28週 (7/8～ 7/14)			第43週(10月27日)までの合計(人)
		2	1	3	1	2	1		

表は患者報告のあった週のみ掲載し、報告が0人の週については省略

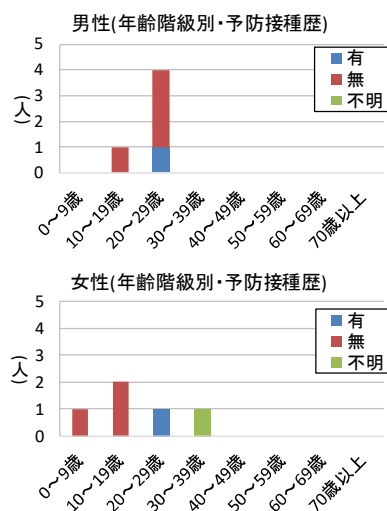
年別麻しん患者報告数

麻しん	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
名古屋市	75	11	6	19	5	1	20	0	1	1	27	10※1
愛知県	197	29	32	32	39	25	46	0	5	1	37	40※2
全国	11013	732	447	439	283	229	462	35	165	186	282	723※2

※1: 第43週(10月27日)まで ※2: 第42週(10月20日)まで

麻しん患者の性別・年齢階級別・予防接種歴(2019年名古屋市)

		予防接種歴			総計(人)
		有	無	不明	
男性	0～9歳				0
	10～19歳		1		1
	20～29歳	1	3		4
	30～39歳				0
	40～49歳				0
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	1	4	0	5
女性	0～9歳		1		1
	10～19歳		2		2
	20～29歳	1			1
	30～39歳			1	1
	40～49歳				0
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	1	3	1	5
	総計(人)	2	7	1	10



麻しん患者情報(2019年名古屋市)

No.	診断年月日	年齢	性別	予防接種歴	渡航歴	推定感染地域
1	2019.1.8	7歳	女	無	不明	不明
2	2019.1.10	20歳代	男	無	無	国内(三重県)
3	2019.1.19	20歳代	男	無	無	国内(愛知県)
4	2019.1.21	10歳代	女	無	有	フィリピン
5	2019.1.22	10歳代	女	無	有	フィリピン
6	2019.1.25	20歳代	男	有	無	国内(三重県、愛知県)
7	2019.2.20	10歳代	男	無	無	国内(愛知県)
8	2019.3.1	20歳代	男	無	無	国内(愛知県)
9	2019.3.2	30歳代	女	不明	無	国内(愛知県)
10	2019.7.11	20歳代	女	有	無	国内(不明)

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

風しん患者情報(2019年名古屋市)

No	診断年月日	年齢	性別	予防接種歴	渡航歴	推定感染地域
1	2019.1.4	40歳代	男	不明	無	国内(静岡県)
2	2019.1.21	60歳代	男	不明	無	国内(愛知県)
3	2019.2.8	30歳代	男	不明	無	不明
4	2019.2.9	20歳代	女	不明	無	不明
5	2019.2.12	40歳代	男	不明	無	国内(愛知県、東京都)
6	2019.2.15	40歳代	男	不明	無	国内(愛知県)
7	2019.2.23	40歳代	女	不明	無	国内(愛知県、大阪府)
8	2019.3.1	30歳代	男	不明	無	不明
9	2019.3.2	30歳代	男	有	無	国内(大阪府)
10	2019.3.11	40歳代	男	無	無	国内(愛知県、岐阜県)
11	2019.3.18	40歳代	男	無	有	国内(愛知県、兵庫県、大阪府)、オーストラリア
12	2019.5.6	20歳代	女	有	無	国内(愛知県)
13	2019.5.10	30歳代	男	不明	無	国内(愛知県)
14	2019.5.17	30歳代	女	不明	無	国内(愛知県)
15	2019.5.20	20歳代	男	不明	無	国内(東京都、愛知県、大阪府)
16	2019.5.23	1歳	男	有	無	国内(愛知県)
17	2019.5.25	10歳代	男	有	無	不明
18	2019.6.4	50歳代	女	不明	無	国内(愛知県)
19	2019.7.26	30歳代	女	不明	無	国内(愛知県)
20	2019.10.11	20歳代	男	不明	無	国内(愛知県)
21	2019.10.18	30歳代	男	不明	無	国内(愛知県)

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔愛知県麻しん・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻しん・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻しん・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先(愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>)をご覧ください。

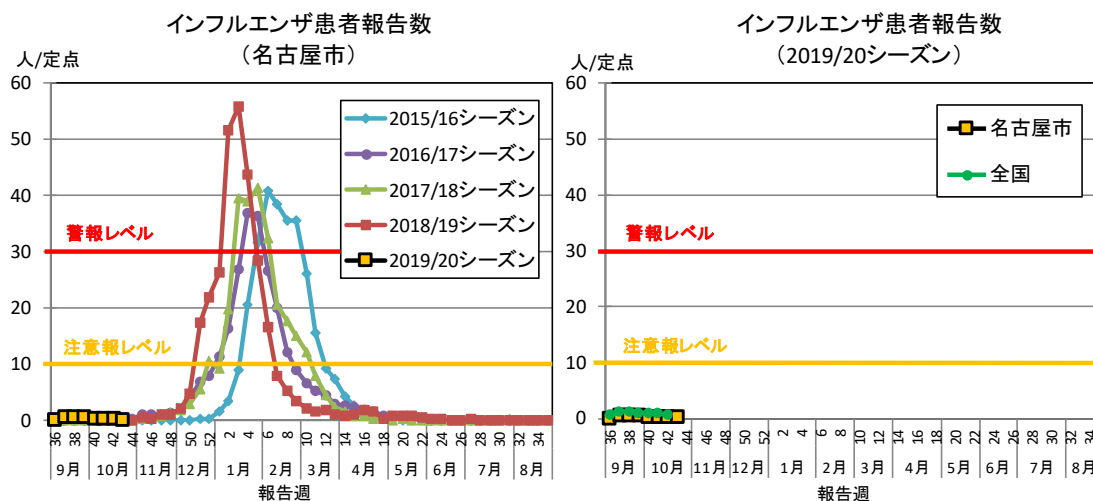
〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

インフルエンザ：A型1名	定点医療機関(千種区)
ノロウイルス 1Y Male	定点医療機関(東区)
インフルエンザA型：1名	定点医療機関(北区)

インフルエンザ A 型 3 名	定点医療機関（中村区）
インフルエンザ B 型：1 名	定点医療機関（熱田区）
インフルエンザ A 型男性 2 名	定点医療機関（南区）
気管支炎が目立つ	定点医療機関（天白区）

〔名古屋市のインフルエンザ報告数：2019年10月30日作成〕



※名古屋市は2019年第43週、全国は2019年第42週までの報告数

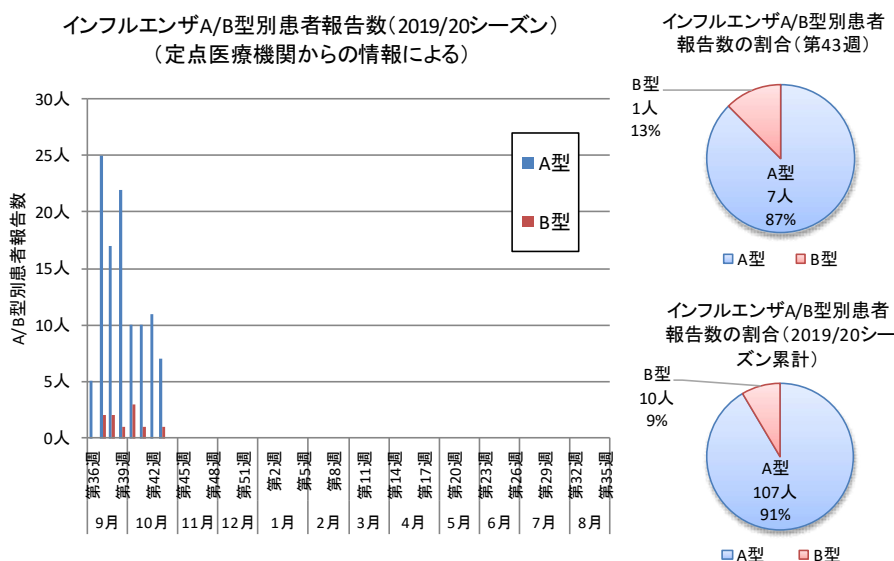
定点当たり患者報告数(2019/20シーズン)

	第36週 (9/2～ 9/8)	第37週 (9/9～ 9/15)	第38週 (9/16～ 9/22)	第39週 (9/23～ 9/29)	第40週 (9/30～ 10/6)	第41週 (10/7～ 10/13)	第42週 (10/14～ 10/20)	第43週 (10/21～ 10/27)
名古屋市	0.11	0.60	0.61	0.69	0.39	0.40	0.31	0.23
愛知県	0.21	0.81	0.70	0.51	0.41	0.68	0.44	—
全国	0.77	1.17	1.16	0.92	0.99	0.90	0.72	—

※「1」を超えると流行入り、「10」を超えると注意報、「30」を超えると警報の基準
 ※報告数は各週公表時における速報値

インフルエンザA/B型別流行状況

インフルエンザウイルス迅速診断キットによるインフルエンザA/B型別の検査結果が定点医療機関から報告されています。本市におけるインフルエンザA/B型別の患者情報を集計したところ、2019年第43週は、インフルエンザA型7人、インフルエンザB型1人でした。2019/20シーズンの累計では、インフルエンザA型107人(91%)、B型10人(9%)となっています。



(報告数はその訂正などにより、変更される場合があります)

◆2019年第43週 患者報告数(疾病区別)、定点あたり患者報告数(疾病区別)、年齢階層別患者報告数(疾病別)

患者報告数(名古屋市)

2019年第43週(2019年10月21日～10月27日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	太白	計	前週比	過去比*
★インフルエンザ	1		2		4				2	2	3		2				16	0.7	1.0
○RSウイルス感染症	12	1	4	18	5					1		11	1	3	8		64	0.8	1.2
○咽頭結膜熱	1	3	1	1	1							1			2		10	1.1	1.6
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	3	3	2	4	1			1	2	3	4	1	7	1		43	0.9	0.8
○感染性胃腸炎	4	11	8	6	7	12	8			8	7	4	6	2	6	10	99	0.9	0.6
○水痘	1				1					1							3	3.0	0.3
○手足口病	7	2	1	16		1			1	3	1	3		1	4		40	0.8	0.7
○伝染性紅斑	3	2	1	2						1	1	1	4		3	1	19	0.9	8.1
○突発性発疹	3	1								2					1		7	0.6	0.6
○ヘルパンギーナ					5					9				2	2		18	1.2	2.2
○流行性耳下腺炎				1									1				2	1.0	0.2
△急性出血性結膜炎																	0		
△流行性角結膜炎													1				1	0.5	0.3
△細菌性髄膜炎																	0		0.0
◇無菌性髄膜炎																	0		
◇マイコプラズマ肺炎							4										4	0.7	0.8
◇クラミジア肺炎																	0		
◇感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																	0		
計	41	23	20	52	21	14	12	0	4	27	13	27	16	11	33	12	326		

*過去3年の同週の平均値との比

★インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△眼科定点数	1		1	1	1		1	1	1			1		1	1	1	11		
◇基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

セルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況(名古屋市)

2019年第43週(2019年10月21日～10月27日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	太白	平均
インフルエンザ	0.2		0.4		0.8				0.5		0.5		0.8		0.5		0.2
RSウイルス感染症	2.4	0.3	0.8	4.5	1.0						0.3		2.8	0.2	0.8	2.0	0.9
咽頭結膜熱	0.2	0.8	0.2	0.3	0.2								0.3			0.5	0.1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.8	0.8	0.6	0.5	0.8	0.3			0.3	0.5	0.5	0.8	0.8	0.3	1.8	0.3	0.6
感染性胃腸炎	0.8	2.8	1.6	1.5	1.4	3.0	1.6				2.0	1.8	1.0	1.2	0.5	1.5	1.4
水痘	0.2			0.3							0.3						0.0
手足口病	1.4	0.5	0.2	4.0		0.3			0.3	0.8	0.3	0.8		0.3	1.0		0.6
伝染性紅斑	0.6	0.5	0.2	0.5						0.3	0.3	0.3	0.8		0.8	0.3	0.3
突発性発疹	0.6	0.3								0.5					0.3		0.1
ヘルパンギーナ				1.3						2.3					0.5	0.5	0.3
流行性耳下腺炎				0.3											0.2		0.0
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎													1.0				0.1

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

流行警報・注意報について

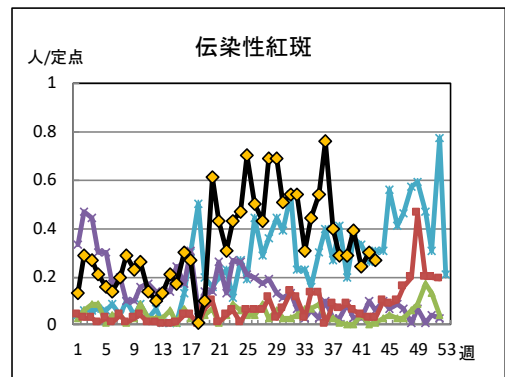
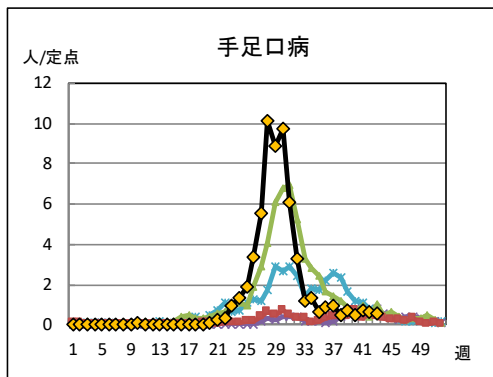
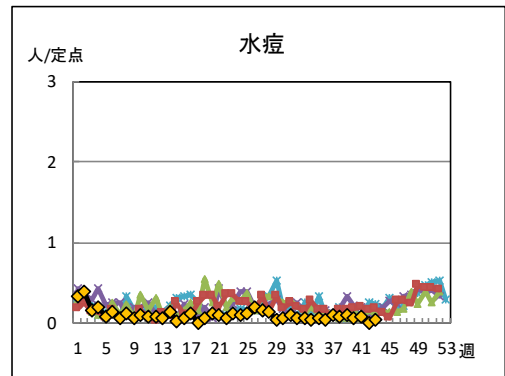
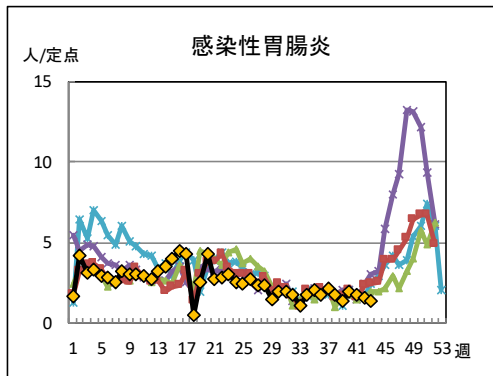
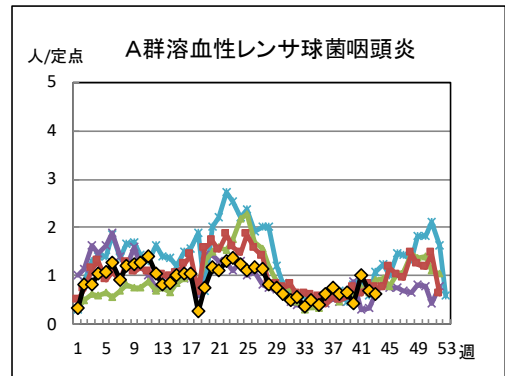
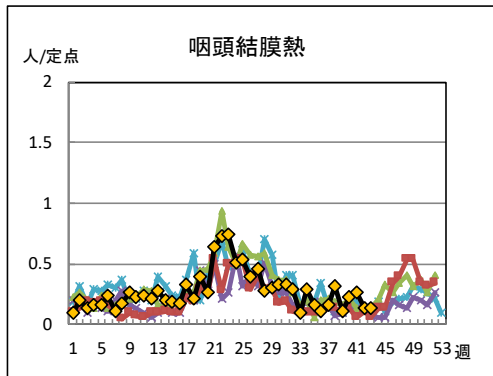
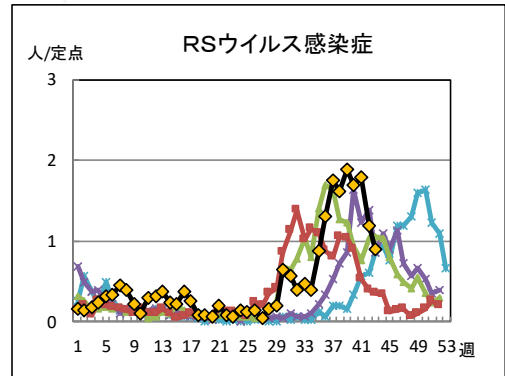
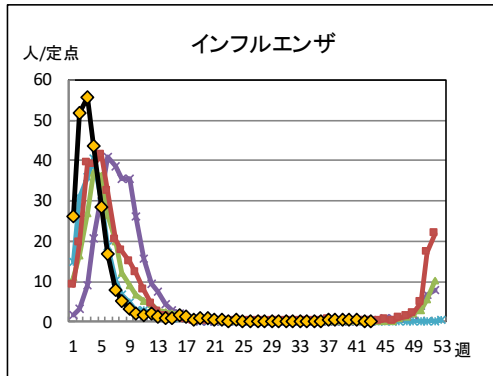
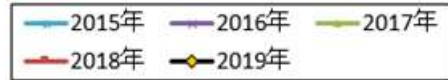
■太字の数字は流行発生警報

■斜体の数字は流行発生注意報

■警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値(左表)に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2019年第43週まで



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2019年第43週まで

